

# ひらつか 民児協だより

第 38 号  
2025 Oct.

令和 7 年 10 月 1 日  
発行:平塚市民生委員  
児童委員協議会

— 支えあう 住みよい社会 地域から —



写真提供：中戸川 幸雄 様



“ 笑いの中、楽しく ”  
青空の下で健康体操

松が丘地区

松が丘では、東中原・伊勢山・大原の3地区において、よろず相談センター「まつがおか」と連携し、『青空サロン』を開催しています。

伊勢山地区を例に挙げると、毎週火曜日午前十時から四十分程、伊勢山公園にて三、四十名が参加しています。メニューは、ストレッチ↓ラジオ体操↓月替わりの歌を二曲合奏↓ラダーを使ったコグニサイズ。『笑いの中楽しく』をモットーに、体と頭を使った運動は、難しくて失敗しても笑いに換え、参加者同士のコミュニケーションを図りながらフレイル予防に努めています。

また、よろず相談センターの担当者に困りごとや悩みごとを気軽に相談できる場にもなっています。

東海道五十三次を用いた出席表で京都到達者には表彰状を贈呈して、みんなでお祝いしています。次は四国遍路八十八か所に移ります。多くの人に楽しみな健康づくりに参加して欲しいです。

横内地区

子どもから高齢者まで  
みんなが楽しめる地域  
になるように



子育て支援「たいよう」



敬寿の集い

子どもを対象とした活動として、未就園児向けの子育てサロン「たいよう」と、小中学生向けの「子どもサンサンカフェ」があります。

たいようでは、保育士さんと手遊び、読み聞かせをしたり、保健師さんなどと様々な活動を行います。カフェでは飲み物を用意して、七夕かざりを作ったり、ダンスを教わったりして楽しく過ごします。

高齢者向けのイベントとしては、七月のふれあいサロン、十一月のひとり暮らし高齢者食事に続いて、一月の敬寿の集いがあります。

敬寿の集いでは、楽しいマジックを観た後、バンド演奏にあわせ、なつかしい昭和の曲を元気に歌いました。また、地区内の子ども食堂のお弁当をおしゃべりしながら楽しく味わいました。

◇会長退任にあたり

この度、令和 7 年 11 月末日にて平塚市民生委員児童委員協議会の会長を退任させて頂くことになりました。前会長の小瀬村会長から引き継いで、早いもので 6 年の歳月が流れました。

時は図らずもコロナ禍の問題に直面し、いかに民生委員児童委員を含めた市民の中から感染者を出さないかに焦点を当てると同時に、一方では高齢者の中に家に引きこもっている方が多くみられ、コロナ禍で生活不安になって居られる方々も増加傾向にある時期でございました。

この間の後半の 3 年間は県の民児協の副会長も務めさせていただき、市民児協だけでは知ることのできない、色々なことを知ることが出来たこと、皆様に感謝申し上げます。

これからは地域の民生委員として更に 7 期目を迎え、全うする覚悟でございます。

私をお支え頂いた皆様に感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

平塚市民生委員児童委員協議会  
会長 小原 公一

◇皆さまへ心より感謝申し上げます。

民生委員児童委員の皆さまにおかれましては、身近な相談役、また市民と行政のパイプ役として地域での絆づくりにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

少子高齢化のさらなる進展や人口減少、地域でのつながりの希薄化など、変化する社会情勢の中にあって、地域福祉はますますその重要性を増しています。地域にお住まいの方たちが安心して住み続けられるよう、見守りや相談支援はもとより、災害時における活動も含め、皆さま民生委員児童委員の存在と活動は大変尊いものであると考えています。

今後も、そうした皆さまの活動を地域福祉の軸としながら、本市地域福祉リーディングプランに掲げている「地域共生社会の実現」に向けて取り組んでまいります。皆さまとともに歩みを進めたいと考えていますので、お力添えを賜りますようよろしくお願いします。

結びに、皆さまのご健勝とますますのご活躍を祈念し、私からのあいさつといたします。

平塚市長 落合 克宏

☆ 定数が変わります

3 年に一度の一斉改選に際し、地区民児協や各地区の自治会連合会の意見を踏まえ、民生委員児童委員の定数を変更することができます。今回は、以下のとおり 4 地区で計 5 人の減となりました。

|      |     |      |     |
|------|-----|------|-----|
| 南原地区 | 1 減 | 横内地区 | 1 減 |
| 旭南地区 | 2 減 | 旭北地区 | 1 減 |

定数（主任児童委員を含む）  
（～令和 7 年 11 月）（令和 7 年 12 月～）  
408 人 ⇒ 403 人

※主任児童委員については、46 人（各地区 2 人ずつ）で変更はありません。

ひらつか民児協だより 第 38 号

発行日：令和 7 年 10 月 1 日

発行人：小原公一（民児協会長）

編集人：中山裕史（広報部会長）・B グループ

発行所：平塚市民生委員児童委員協議会

住 所：平塚市浅間町 9 番 1 号

電 話：0463-21-9848

民生委員の聞き書き日記

「ひとり暮らしの高齢者調査」はなかなか手強い任務だ。事実確認だけで済まないこともある。K 子さんの場合がそうだった。

「先日家族会議をしましてね、『お母さんは認知症なんだから、一人にしておくわけにいかないよ。僕（長男）のいる千葉で施設を探すから、そういうことにしよう』と決まったんです。」「スーパーで財布を無くしたことがあったし、お金を持たずにバスに乗ったこともあるしね。やはり認知症なんですね。」

「ひとりで暮らしの高齢者調査」はなかなか手強い任務だ。事実確認だけで済まないこともある。K 子さんの場合がそうだった。

K 子さんは五月の連休明けに家族の車で千葉に発った。私は悔恨の思いで一行を見送った。

私は折々の訪問で K 子さんの身の上話を傾聴してきたが、認知症へは思いが至らなかった。身を入れて研修しなかったことを申し訳なく思った。

一か月過ぎたころ、K 子さんと電話が繋がった。「あのね、初期の認知症ですって」。いつものようなハリのある声に安堵した。

（民生委員児童委員 N）



## 南原地区

【そなエリア東京】で  
首都直下型地震を体験しました



【そなエリア東京】  
は平塚駅↓大崎駅↓  
国際展示場駅から徒  
歩4分。東京臨海広  
域公園の中。名前の  
由来は「備える」+  
「エリア」の造語。

防災学習施設の中心は「東京直下7.2時間  
ツアー」で、支援体制が整うまでの3日間を  
どう生き延びるかを学ぶものです。倒壊した  
建物はとてもリアルで、暗い中、タブレット  
を使い防災クイズをしながら避難場所を目  
指す体験は、発災後の知識や心構え等を学ぶ  
事が出来ました。分かっていてもエレベータ  
ーでの揺れ、停電はとても怖かったです。2  
階は、防災グッズや体験談、そなえについて  
展示されていました。



定例的な活動として、毎月第3木曜日に、  
0歳～未就学児を対象に子育て支援『ぶらん  
こ』を開催しています。内容は絵本の読み  
聞かせ、楽器演奏、  
お誕生日会など  
です。一時でもお母さ  
んたちの息抜きに  
なればと思って活  
動しています。

## 田村地区

大道芸人も来る「敬老を祝う会」  
熱中症予防に「愛情一本」も

コロナ禍の緩和に伴い、田村地区でも毎  
年、地区社協と民児協との協働事業である  
高齢者の方向けの「ふれあいサロン」や  
「宅配弁当」等を恒例とし、0歳児～未就  
学の子どもたちには「体育館であそぼう」  
をテーマに趣向を凝らし開催しています。

また、今回4年  
ぶりに大道芸人を  
呼び、小学生児童  
による合唱や肩た  
たきのプレゼント  
を取り入れ、和や  
かで愉快で素敵な  
「敬老を祝う会」  
を催すことができ、  
皆様に喜ばれまし  
た。



そして、猛暑の  
続く季節を民生委  
員児童委員が熱中  
症予防に「愛情一  
本」をテーマに令  
和5年より、高齢  
者の各家庭を訪問  
し麦茶をお配りす  
る活動を続けてい  
ます。



## 中原地区

私たちを支えてくれる家族に  
ひとこと。『ありがとう』

コロナが収束した現在も日々変化する  
社会環境下、さらに多様化する民生委員児  
童委員活動を支えてくれる家族へまずは  
感謝しています。中原地区では、毎月の活  
動体験談を新任の方が相談対応で困らな  
いよう共有し仲間たちで協力しています。

また、活動のスキルアップのために自主  
研修などを積極的に行ったり、地域包括支  
援センターや児童相談所の協力により地  
域の実情を知る説明会も行うなど、地道な  
活動を共に支え合う頼もしい仲間の集う  
地区です。

今回紹介する高齢者給食会は収容人数を  
超えてしまうほど人気の活動です。参加した  
方は、バランスの良い食事だけでなく、健康  
体操や季節のミニ健康対策の説明や、参加  
者同士の会話が楽しくて、「また次も会いま  
しょうね」など、とても盛り上がっています。



## 大神地区

さつまいもの苗大きくなあれ  
相模小学校児童とのふれあい活動



大神地区町内福祉村「よき郷」は毎年、  
相模小学校児童と農園部活動でさつまいも  
苗の植え付け、収穫などを行っています。  
今年も5月に児童や先生たちと福祉村の  
皆さんの指導により、ひとり3本ずつ苗を植  
えました。帰りにはお土産として、じゃがい  
もをいただきました。

また、夏休みには平塚の七夕まつりの竹を  
もらい、相模小児童と保護者と一緒に、水鉄  
砲や竹ポックリ等の竹細工づくりを行います。  
二月には羽根つきや竹馬などの昔遊び、  
十一月には6年生を対象に大神地区の歴史  
散策の手伝いもしています。

子どもたちの健やかな成長を願って、私た  
ち民生委員児童委員も共に頑張っていきま  
す。

## 四之宮地区

支える気持ち優しい気持ちを  
募金活動にこめて



四之宮地区では、年4回、①赤十字会員、②  
賛助会員、③赤い羽根募金、④年末助け合い  
募金を自治会連合会、社協、民児協で連携・協  
力して行っています。

幸せを分かち合う温かい心を人々が通わせ  
あい、その優しさを大切に、社会福祉を向上  
させて行くことを目標に「つながりを絶やさ  
ない社会づくり」をテーマに展開しています。

市内には、ひとり暮らしの高齢者、寝たき  
りや認知症の高齢者、障がい児者や、ひとり  
親の世帯など、何らかの生活支援を必要とす  
る人々が暮らしており、この多種多様な社会  
課題に向き合い、募金活動を通じ様々な支援  
が行われています。

私たちの募金活動が地域共生社会の実現の  
一助になればとの思いで、これからも自治会・  
社協・民児協等との連携により、活動に励み  
たいと思います。

## 豊田地区

奇跡の一本松の前に立って考えた  
防災は地道な備えの先にあると

私たち豊田地区民児協では、自然災害の  
恐ろしさを「肌で感じ、学ぶ」ために、東日  
本大震災の被災地を訪ねる研修を実施しま  
した。

岩手県の久慈から三陸鉄道で普代まで、  
その後バスで北山崎、田老町、浄土ヶ浜、碁  
石海岸、陸前高田までを訪ねる旅でした。  
風光明媚で穏やかな浄土ヶ浜の海岸、鉄  
壁の守りと思われた田老の防潮堤、陸前高  
田の「奇跡の一本松」とその横の震災記念館  
などが印象に残りました。津波の破壊力の  
痕跡が随所に残り、命を守るための「防災・  
減災」の重要性を再確認しました。

私たちは、災害弱者の支援を期待されて  
いますが、より身近に自然災害の恐ろしさを  
認識するようになりました。常日頃、行政  
が提唱している「減災へ地道な備えの継続」  
を真剣に実行していくつもりです。



写真提供：一般社団法人  
陸前高田市観光物産協会